

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi)：中央研究施設機能部門：教授：任期：H31年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATO Takeshi)：歯科・口腔外科：准教授：任期：H31年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi)：総合医療センター病理部：教授：任期：H31年3月31日
部門員：大島 晋 (OHSHIMA Susumu)：中央研究施設形態部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi)：中央研究施設 RI 部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami)：中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIBASHI Michio)：情報技術支援推進センター：教授：任期：H31年3月31日

2. 目的

本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、本学における臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動報告

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。平成30(2018)年度は、医学研究センター、皮膚科、消化器一般外科、医学教育センター、ER、生理学(2グループ)、小児科、アドミッションセンター、消化管内科、毛呂山キャンパス RI 部門、歯科・口腔外科、保健医療学部看護学科により有効利用された(総利用料：¥276,000)。

【研究機器・設備整備】

①平成30(2018)年6月、ホシザキ社製製氷機(FM-120K)、メトラー・トレド社製分析天秤(ME204)が、平成30年度埼玉医科大学 研究マインド支援グラントにより日高ブランチ機能部門に研究支援のために導入され、利用が開始された。

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

①平成30(2018)年9月6日、14:00-16:00、基礎医学棟3階・中央研究施設機能部門「日本電波工業 NAPICOS デモと利用方法」対象：学内研究者

【委員会等】

1) 共同利用施設運営部門／中央研究施設運営委員会会議

①第70回中央研究施設運営委員会会議、日時：平成30(2018)年5月7日(月)～5月9日(水)、【議題】1) 研究マインド支援グラント(共通部門)と中央研究施設の設置希望機器リストについて【議事】学内グラント(研究マインド支援グラント(共通部門))が公募(4月～5月10日〆切)され、各部門において対象となり得る機器のリストアップが行われた旨、報告された。また、これに伴い設置希望機器リストの更新について説明された。日高ブランチ機能部門の範囲内からのみのリストアップであったため、内部協議の結果、4月に開設された日高ブランチ機能部門の早期運営に不可欠な機器を優先した旨、説明された。〈研究マインド支援グラント(共通部門)申請機器〉1位：リストNo.10 ホシザキ社製 製氷機 FM-120K ¥859,680、2位：リストNo.11 メトラー・トレド社製 分析天秤 ME204 ¥180,000、3位：リストNo.12 TOMY 社製 微量高速冷却遠心機 MX-307 1 式、4位：リストNo.8 Bio-Rad 社製 マイクロプレートリーダー iMark

¥1,125,360, ②第71回中央研究施設運営委員会議, 日時:平成30(2018)年7月25日(月)~9月3日(月), メーリングリスト会議, 【議題】1) 研究マインド支援グラント(共通部門)と中央研究施設の設置希望機器リストについて, 2) 中央研究施設運営委員会規則改正について 【審議】1) 前回, 報告された平成30年度研究マインド支援グラント(共通部門)への申請結果について以下の1~2位の機器が採択された旨報告され, 現在の新規設置希望機器のリストが更新された. 1位:リストNo.10 ホシザキ社製 製氷機 FM-120K ¥859,680, 2位:リストNo.11 メトラー・トレド社製 分析天秤 ME204 ¥180,000, 2) 中央研究施設運営委員会規則改正に関して, 中央研究施設の拡大に伴い, 現在の中央研究施設は部門長7名, 施設長1名となった. これに伴い, 他組織に倣って各部門長の辞令交付を定期的に行うため, 中央研究施設規則第5条の「部門長」に関して任期期間(2年)を設ける改正案が施設長より提出され, 承認された.

【共同研究の啓蒙活動等】

東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクスセンター(平成29年4月1日~令和元年3月31日)及び城西大学(平成28年4月1日~31年3月31日)と中央研究施設の間で共同研究契約書を取り交わしており, 共同利用施設を有効利用した共同研究が継続されている. 更に, 日高ランチ機能部門管理下に, 毛呂山キャンパスと同様の共同利用実験室, 共同利用フェローステーションの整備が進んでおり, リサーチパークにおいて研究活動を行う会社, 各キャンパスの研究者による共同研究の推進とその支援に関して本格的な活動がスタートされる.

4. 評価と次年度目標

実験動物施設における感染対策に関しては, 極めて良好な結果が得られている. 感染動物の検出はほぼ陰性の状態が続いている. 助成金申請に関わる変化が大きいため共同利用施設運営部門として事務部門とタイアップし, 共同利用研究機器購入経費を獲得することを目的として活動して来たが, 他大学との連携が重要な面があり, 今年度は新たに外部向けホームページの作成を行い, 共同利用施設の設備の情報公開と新たな連携大学の開拓を推進している.

平成30(2018)は, リサーチパーク開設に伴い共同研究の遂行をサポートするために中央研究施設日高ランチが改組されたが, 日高ランチ機能部門, RI部門, 実験動物部門各部門が整備をスタートし, 組織としても拡大されたため, 各研究者, 事務系とも連携を深め運営を遂行することができた. 次年度4月からの本格的な支援活動の遂行を目指しているが, 共同利用実験室の整備を更に進める必要があるため, 共同利用施設運営部門として日高キャンパスの各部門の活動の支援を行う. また, 外部向けホームページへの日高ランチの情報公開を目指す.